



山口洋典 新連載

今回からお仲間に入れていただきました。連載への参加を打診させていただいた後、歓迎のメッセージにて「広く対人援助に資するもの」というテーマの括り以外はページ数も含めて自由、といただきました。ただし、「気まぐれではなく、必ずの連載」が基本ルールと記されていました。ふと、幼少の頃に手をのばし、大人になってから改めて奥深さを知った藤子不二雄の自伝的作品『まんが道』(安孫子素雄先生の執筆)で紹介されたエピソードを思い出しました。

2017年度、1年間をデンマークのオールボー大学で過ごしています。連載の冒頭にも記しましたが、出国直前にサトウタツヤ先生とランチを一緒にした際、「現地で得た知識を早いうちに文字にした方がいい」と、連載への道に誘っていただきました。藤子先生は1954年、10本の原稿を抱えたまま年末年始を郷里で過ごすため2人で帰郷し、年明け早々、「ヨソヘタノンダ」の電報が届いて8本の原稿を落とすことになったそうです。デンマークは日本よりも一足先に夏を迎えつつあり、バカンスへのムードが漂う中ではありますが、そうした雰囲気の中で唯一の連載記事を落とすことのないよう、次号への準備を重ねます。

(写真、左がオールボー大学の心理系の学科の基本棟。ご感想、ご質問、また視察のご希望など gucci@fc.ritsumeai.ac.jp にいただければ幸いです)



寺田 宏志 新連載

はじめまして。大阪府茨木市で接骨院を営んでいる寺田と申します。「接骨院に心理学を入れてみた」を初投稿させていただきます。

投稿するにあたって、マガジンの前の号を読んでみました。前の号を読んだだけで、すごいボリュームに圧倒されてしまいました。「こんなに記事があって、読んでもらえるのかなあ?」と不安になっています。

それはさておき、どうぞ仲良くしてください。よろしく願いいたします。

関谷 啓子 連載第二回

明日、簡単な手術を予定している。しばらくは外を出歩くのは控えた方が良くもしいので、歩ける間に、、、と毎日出歩いていたら初夏の日差しは本当に強いらしくこんがりと灼けてきた。

昨日は京都市郊外の亀岡にある森の伐採作業に参加。

大企業 M 製作所の所有する森だが、年に5回ほど社員や家族を対象にレクリエーションを兼ねた森の手入れを実施している。

混みあった木を伐採したり、それを利用した階段やベンチを作ったりするのだ。続けていると顔なじみの家族もできて子供達の成長も見ることができる。

素人の伐採は危険なので、助っ人としてわたし達も参加する。わたし達というのは「京都森林インストラクター会」で、簡単な森林作業をやったり自然観察会を実施したりしている団体である。

雨上がりだったからか、空は抜けるように青く周りの山々の稜線もくっきりと見える。新緑もそれぞれに落ち着き森は今エゴの木の花ざかりだ。

森の中は散ったエゴの花でまるで地上に星空を移したよう。

踏まずには歩けないので子供達はキャーキャーはしゃいでいる。

小さな子達も木を倒す最後の時はロープを引っ張るし、倒した木の枝をノコギリで切り落としたり、幹の皮を剥いたりする。

始めは怖がって遠巻きに見ていても、大人たちが声を上げて楽しそうに木を引っ張っているのを見てやりたいと寄ってくる。周りの大人たちが少しだけ手を添えてやると最後までちゃんと出来るし、達成感もなかなかのものようだ。

切り株に腰掛けて森のお弁当を食べながら 良いなあ〜 と思う。

今日のこんな経験が小さな種になっていつかながか生まれるかもしれない。なに生まれなかったって今日一日をこんなふうにご過ごせただけで十分だ、、、と思っただけの幸せな一日も終わった。

70歳を目前にまずまずの五月最後の週末。

黒田 長宏 連載第二回

3月4月は、私はあまりサッカーには関心が無いのだが、鹿島アントラーズの近くなので最近の世界クラブチーム2位になってしまうような時に、にわかに関心を持ったりしてまた遠く繰り返してである。

ところが母の内縁の夫が(こう書くと私の本文のテーマである、結婚や離婚問題のテーマに繋がってしまいそうなので詳細は略すが)毎試合アントラーズの試合をチェックしたい人で、母に頼まれて、それまでADSLで十分だったのだが、ひかりファイバー(正式にはFTTHと言うのか、あまり広げられない言葉だが)にとうとうする事にした。ADSLだと映像が止まってしまう懸念がある。そもそもスカパー!で衛星放送でサッカーのJリーグは放映されていたのに、ダ・ゾーンというイギリスのインターネットスポーツ配信の企業に契約が移ってしまい、インターネットでJリーグの試合は放映される事になってしまったからである。

アントラーズくらい上位のチームになるとBSでもけっこうやったりしているようだが、それで結婚トラブルで辛いところ、ADSLから、ひかりにするので、どこのプロバイダーにするか選んだり方法を調べたりして、そつちに意識が向かい少し気が紛れた。ひかりTVという、スカパー！とほとんど同じ番組を配信する仕組みも知ったし、無線の最新の状況や、中継器という電波の飛ばし方の装置についても知識を得られた。また、ひかりTVは、録画が基本的にはハードディスクで出来るが、保存としてはブルーレイでやったほうが良いので、今までDVDしか扱っていなかったのに、ブルーレイを採用する事になった。母と内縁夫は別棟でテレビを観るのだが、中継器の設置の仕方でもゾーンによってJリーグを再び観戦出来るようになった。

このように自分だけではちょっと前の方法で十分で停滞していたのではあるが、誰かの都合の後押しで、私も進んでしまうという事があるのだと言うのが気づきであり、体験であった。お金は以前よりかかってしまうし、設置の出費も多かったが、以前より便利になったとは言える。

ADSLだと、NHKのオンデマンドで過去の大河ドラマなどの見放題が途中で止まってしまつて観る気が失せていたのだが、ひかりにしたら止まらないからまた観る事がストレスなく出来るようになったり、アンテナの関係だと思うが、NHKだけがなぜか録画出来なかったが、ひかりTV経由でブルーレイにして録画出来るようになった事など、お金が以前よりかかるだけの事はたしかにある。

鷓野祐介 連載第二回

今日、クチナシの白い花がほころんでいるのを見かけました。ああ、今年もまた6月が来たんだと、報せてもらった気がしました。もうすぐ梅雨の季節ですが、それも悪くないと思えるようになってきた今日この頃です。それにしても、6月の花には白い花が多いのはなぜでしょう。

臼井 正樹

前回の短信では、介護福祉と外国人材材の関係について考えたいと述べたが、思うように進まなかったのが本当のところ

である。介護を巡る問題は介護人材の養成確保のあり方につきて考えているが、介護人材のあり方については、3年近く前に一回じっくり考えたことがある。その時に整理した論文もどきが未発表のままになっていたのをいいことに、それをリメイクして介護人材を巡る論点整理とさせていただいた。

山下桂永子

そろそろ今年も夏の町家合宿について、準備をしようと思っているところです。ところがこの数日、テレビは「今年は猛暑になります」と伝え、職場の方が「今年は猛暑になるんだってね」と言っておられます。この情報、私には恐怖でしかありません。今から「(旅行案内パンフレット風に)クーラーなしで過ごす猛暑の京都、2泊3日の旅」への恐怖におびえております。昨年はこの10数年の町家合宿史上、3本の指に入るほど、暑さがマシで、夜は快適な睡眠が取れたので、今年の「(再び旅行案内パンフレット風に)猛暑に行く、町家合宿2泊3日」から無事に生還できる自信がありません。というわけで、今回は夏の京都の暑さにやられたある参加者の感想文をのせてみました。「暑かった。ひたすら暑かった」と書かれた雰囲気味わっていただければ幸いです。



尾上明代 再開第二回

外食が多い生活なので、家で食べるときくらいは健康的(?)なものと思ひ、有機野菜の宅配をとり始めました。セット内容はお任せで、そのときに採れたものが8種類くらい届くので、何が来るか楽しみとも言えるのですが、「はずれ」のときもあります。前回は、大玉のサニーレタスが来て・・・葉がやたらに大きいのです。とても生では食べきれないと、炒め物にしたら美味！毎日食べて、やっとなくなりました。そ

して昨日。今度は超大玉のサニーレタスと超大玉のリーフレタスが一個ずつ入っていました・・・葉がお化けみたいに大きい。夢に見そう。

小池英梨子

暑さが増すと家猫の寝相のだらけ具合も増してきます。猫の幸せを勝手に決めつけることはできません。「室内で飼われているのが幸せだ」も「外でのびのびしているのが幸せだ」も「不妊去勢手術をして子孫が残せなくても、穏やかに長生きすることが幸せだ」も「避妊去勢はせずに自然のまま短くぶとく子孫を残して短命を生きる方が幸せだ」も、全部人の主観で憶測しているにすぎない。だから、「猫のために」活動しているのではなく、あくまで自分は自分のために活動しているんだと時々思い出すようにしている。猫が殺処分されている現状は、私が辛いから変えたい。子どもを産みすぎてポロボロになっている母猫を見るのも、育てない子猫を見るのも、交通事故にあつて人為的に猫が死ぬのも、猫が苦情の対象になって人から嫌われるのも、それを見聞きする私が辛いから私は行動する。果たしてそれが、猫にとって、どうなのか、知るすべはない。



三野宏治

数年前から、顎ひげをはやしている。「ここに顎があります」と示すためだが手入れが必要だ。髭も髪同様に毛であるため各々の伸びる速さがちがひ、そろえる必要がある。その道具を手に入れ手入れをしている。小さいバリカンのようなもので、これによって髭の手入れはできている。

他方、手入れすべき箇所がほかにある。眉毛だ。放っておいてもよいのだが、伸びるに任せるとかかなり長くなり、最終的にカールしてしまいピエロのように面白いこと

になる。自分が見ても面白いので他人が見れば、その衝撃は相当なものだろうとおもう。笑わせるならまだしも笑われるのは本意ではない。このように自意識が過敏に働いた私は、髭トリマーで眉毛を刈るという英断を下し実行した。そして成功を収めたのだった。調子に乗った私は、毎日、髭の手入れをする際には必ず眉毛を刈っていた。

ある時、(数日前)忙しく髭をそれない日が続き無精ひげと伸び放題の髪の毛(散髪が嫌いなので年間で3回くらいしか切らない)の日があった。前髪がうっとおしいので、手ぬぐいで頬かむりして講義をした後、トイレに入り鏡を見た私は愕然とした。眉毛がうすい。髭とのコントラストでより薄く見える。しかも頬かむりしている。我ながら怖かった。見たことはないが、三好清海入道とはこのような風体だろう。笑えない。「ここに顎があります」と示すことをあきらめないという選択をした私は、眉毛を髭トリマー整えることをあきらめた。三好清海入道よりピエロになり笑われることを選んだのだった。



松村奈奈子

今回のテーマはGID(性同一性障害)

私が多様性を受け入れるべき…と思うのは、高校生の頃から欧米の映画やドラマが大好きだった事が大きく影響しているように思います。30年前からGIDの登場人物が当然のように存在していました。もちろんGIDの主人公が苦悩したり、差別を受けるというシーンもあり、欧米での多様性を受け入れる歴史を見ながら、考えさせられてきたように思います。

そして日本では。

ここ数年、毎日TVではGIDのタレントさん

を見ない日は無いくらいです。そしてしばしば、タレントさんたちの苦悩した日々のも事もTVで語られています。

今、TVを見ている子供たちは、我々の世代よりもっと、多様性を受け入れる大人になっていくのでしょうか？

大好きなマツコ・デラックスさんの番組を見ながら、考えてしまいます。

奥野景子

気が付けば、今回の対人援助学マガジンで、新連載決意表明も含めて6回目の執筆になる。つまり、マガジンを書き始めて約一年三か月が経ったことになる。私をとりまく状況にいくつかの変化はあったものの、私自身の興味関心の根底はあまり変わっていない。ただ、職場では苦手な役割を担ってみたり、私生活では今までは躊躇して踏み込まなかったところに足を運んでみたりと、何かしら変化した部分もある。自分の興味関心が明確になってきたおかげで、環境が変わることに対して寛容になれてきたのかもしれない。足腰が鍛えられたおかげで、不安定な足場でもそれなりに持ち堪えることができるようになってきたのかもしれないな、とも思う。

方向音痴な私は、道に迷うことが少なくない。そのわりに知らない道にチャレンジすることも嫌いではない。もちろん、道に迷ったり、まさかの行き止まりにぶつかったりすることもある。調子が良い時は、目的地と真逆の方向に突き進んでいることもある。そんな私がぐいぐい歩みを運べるのは、「ここもあそこもつながっている」と思うからだ。迷子になっても、ここもあそこにつながっていると思うと、寄り道や回り道や遠回りになるだけだ。家族といつもの場所に車で行く時、運転手の私が道を間違えると「またかあ…」と呆れられる時がある。そんな時に「大丈夫！ここもあそこにつながってるから！！」と言い訳していたことが、まさか自分を励ましてくれるとは思ってもいなかった。

「おくのほそみち」も寄り道や遠回りをしたり、たまには近道をしようとしてみたり、そんなこんなで書き進めていけたらな、と思います。

柳 たかを

現在本誌でマンガ「東成区の昭和・ホイラン」を連載させて頂いております。

DIY で小屋を建てたい…、以前、この欄で自己紹介をかねて書いたことがありますが、、、

先日、奈良県下にある建築重機教習所にミニバックホーの運転資格を取りに行ってきました。バックホーというのは、水道管の埋設工事や住宅建築の工事現場などで地面を掘りかえし、掘った土をダンプに積む作業などをする重機のことです。「あ〜あれね」と、ご存知のことと思います。

私の受講したのは、3トン未満(小さい)の機体を運転できる特別教育コースです。実習で乗ったのはコマツの2トンの機体でしたが、これでも一回掘るごとに300kgぐらい土砂を掘ることができます。

教官の言葉「掘るだけやったら、誰でも出来るよ〜、バックホーを本当に使えるちゅうのは、掘り返した穴に土をもどして、表面を水平に均すことができてこそです」。地面を水平に均す(ならず)のが、いかに至難の業か。

バックホーの腕を人間の腕に見立て、肩から肘までをブーム、肘から手首までをアーム、その先に手のひらにあたるパケットがついています。右のハンドルでブームの動き、左のハンドルでアームの動きをコントロールします。

地面を掘る動きは、肘を支点にしてアームを手前に動かせば、パケットが半円を描いて地面を掘ります。しかし、地面を均すには、パケットを地面の高さで水平に前後に動かさねばならない。手のひらで土を手前に寄せて来る動きは、アームを手前に引きつつ、ブームを少しずつ上げ、アームとパケットが近くに寄ってきたらブームを少し下げます。

やってみると、パケットが地表と離れてしまいぜんぜん土に触らなかったり、逆に地面に深く突っ込んだり、教官が、「けいけん、けいけんです、何回もやって身体でおぼえるしかありません」となぐさめてくれます。

結局、あっというまに講習は終わり、恥ずかしながら資格だけはいただきました。感想、ミニバックホーの操縦はたいへん面白かった。鋼鉄製の腕が豪快に土砂を掘り起こしたり、人の手のように地面を織

細に均したり、この機械を自在に操縦できればまちがいなく楽しい、子供の気持ちに帰りました。

齋藤 清二

総合心理学部の授業が2年目に入って、あらためて「心理学」を総合的に学ぶということのおもしろさを実感している。

私が学生だった頃の医学部の授業には、教養科目としての「心理学」が、名ばかりの単位としてあるだけだった。今となっては何が授業で話されたのかほとんど記憶にない。

心理学の専門職資格である「公認心理師」の教育カリキュラムの策定のための検討会議の最終回が本日行われたらしい。総合的な心理学を基礎においた国家資格をもった対人援助専門職を目指す若者への教育がいよいよ始まるということになる。「今時の若者は〜」などという世迷い言を言っている場合ではない。

石田佳子

4月の下旬、目が醒めると、強烈な目まいと吐き気に襲われていました。横たわっていても天井がグルグル回って気分が悪く、起き上がるどころか寝返りさえ打てない有り様で……何が起きているのか見当もつかず(頭も回らず)、ただじっと耐えていました。数時間後、少しましになったので手元のiPadで検索すると、風邪から来る(ウイルスが内耳に感染して起こる)症状で安静にしている他ないらしいとわかったため、その日は一日中ベッドの上で横になっていました。

翌日、夫に支えられながら近くのクリニックを受診すると、医師は簡単な問診の後で予想通りの診断を下し、目まいを緩和する薬を出してくれました。その後は家でひたすら寝て過ごし、一週間後には起き上がれるようになり、二週間後には真っ直ぐ歩けるようになって、約三週間かかって通常運転に戻れました。

もしも日本にいる時、同じ症状に見舞われたとしたら、初日の朝に救急車を呼んでいたと思います。しかし、海外で病気になると、救急車を呼ぶにも「相当な覚悟とお金」が必要になるのです。まず、救急車を呼ぶのにさえない料金(1万円前

後)がかかります。(日本のように迅速に駆けつけてもらえるとは限らないのに！公立病院の救急車は無料ですが、医療水準に不安があるため、マレーシア在住の日本人は、民間病院へ行く場合がほとんどです。)

病院へ着いたら「費用が払えること」を証明しなくてはなりません。(病院の経営状態によっては、診断がつくまでに不要な検査までされるかもしれません。)入院が必要な場合も、事前に全額または入院保証金(約1~17万円)を支払わなければ、入院させてもらえません。(国保はありませんから、個人の保険でカバーされない分は、実費です。支払い方法は病院によって違いますが、入院中に言葉の通じない心細さ、冷房の効き過ぎた病室、不味い食事を供されるのは全ての病院で共通のようです。)手術が必要な場合も、前金を支払うまでは着手してもらえません。(例として、脳出血の手術には入院時に日本円にして約210万円の前金が必要だそうです。)さらに、ミスが多くて万事スムーズに進まないシステムの中で、複雑な手続きを処理しなければなりませんから、元氣いっぱいの時でさえ何かの病気になるようなほどのストレスを被るでしょう。(*カッコ内の金額は凡その目安です。)

今回は運良く軽症だったので、(時間ばかりかかりましたが)覚悟とお金とストレスは要せず切り抜けることが出来ました。しかし、上記のような事情があるため、マレーシアで暮らしている日本人の多くは、健康に不安を感じる年齢になると、日本に帰ることが多いのです。「(企業などの庇護下にある場合を除いて)海外生活では、あらゆることを自己責任」という現実を、再認識させられる出来事でした。

しすてむ♪きよたけ

4月から、石川県津幡町にある「木のおうち」においてもらえるようになった。オープンしたての場であるのに、分かりにくい僕をよく利用しようと思ってくれたものだ。地域の人が集える場をという事で訪問看護、児童デイ、パン屋とカフェなどが連携された場。そのカフェスタッフとして月8日間東京から石川へ。

清武くんは、自由にさせておくのが良い。

と社長も思ってくれ、認識の齟齬があるかもしれないが、僕の扱い方を考えてくれている。それが、うまくいくかどうかはわからない。



ない。

しかし、ことは確実に置けている。場に見合っているかはクレームもある気はするのだが、花見したいという声から花見企画をしたり、地域の勉強会の運営者の場に居させてもらったり…新しい場づくりをしたい方々の会合に誘われたり…収益にはならないが、なんだかんだ、人の輪が広がっている。それは、人と場の力であるからには違いないだろう。



木のおうちの内覧会で試飲のコーヒーを渡せなかったコッシーとよく話すようになったのもその一つ。津幡に通い始め2週間しか経っていないのだが、車椅子生活のコッシーとデートしたり、



何らかのきっかけを促したりミックスしたりしてしまうのが、僕の力です！と言いたいところだが、一方発信ではそれは起こらない。それだけ、地域で動いていこうとしている人たちや何かしたいという欲求が、なんらかの社会の動向の中でおきているからだと思う。

僕は、そこに一口噛ませてもらっている、時々現れる一欠片のピースのような気がしている。

小林茂

仙台の石巻市に臨床宗教師の研修に行ってきました。5月からひと月に1回5日間、3ヶ月にわたって仙台に通うことになるのですが、お寺に寝泊まりしながらの研修です。良い刺激を受けています。ただ、あまり頑張りすぎて心に余裕がなくならないように多用から多忙にならないよう自制は必要と意識しています。

今回の温泉紹介は、その石巻市内にある道の駅にある温泉を紹介します。ここは第1回目の研修期間中に皆で利用した施設です。

○道の駅「上品(じょうぼん)の郷」
〒986-0132 宮城県石巻市小船越二子北下1-1 電話:0225-62-3670(代)
<浴場>9:00~21:00(受付20:30まで)

男女別毎週月曜日入替

・大浴室「さくら」

檜の大浴槽・檜の露天風呂・水風呂・サウナ室

・大浴室「かしわ」

石の大浴槽・石の露天風呂・水風呂・サウナ室

・泉質/含鉄(Ⅱ)ーナトリウム・カルシウムー塩化物泉(高超性中性冷鉱泉)

効能/きりきず・やけど・皮膚病・慢性婦人病等

暖かいお湯は少し白色かかった透明お湯なのですが、水風呂は鉄分が浮き出た茶色の泉質です。口にお湯がふれるとしっかりと塩味がします。よく温まります。

道の駅には、野菜などの直売所とレストランもあり、温泉以外にも楽しめる場所があります。

難点は、この場所です。車でアクセスが、バスでしか通う手段がないようです。

石巻に行く機会があれば、寄ってみてください。

水野スウ

このところ、コッカイオンドクにはまっています。漢字で書けば、国会音読。共謀罪の国会答弁書き起こしを音読する、とい

う市民のアクションが、今全国にひろがっていますが、発祥の地は金沢。

友人が中継録画を見ながらたんねんに書き起こした国会答弁を、声に出して自分たちで読んでみよう、ということからはじまったこの音読会。今、SNSを通じて急速にひろまっています。

何しろ、自分が「金田法務大臣」や、民進党の「山尾議員」や、「安倍内閣総理大臣」になりきって、国会答弁を再現するのですから、これほど共謀罪の中身がわかる教材って、またとありません。国会での本物の答弁ながら、あまりにも意味不明の法務大臣の答弁に、おもわずもれる笑い声。国会の弁売が、あ悔しくりも、情けなくもあります。

誰でもコッカイオンドクのサイト <https://believe-jjimdo.com> から、台本をプリントアウトして、音読会をすることができます。3人集まれば実演可能。6月の上京時には、娘の家でもこの音読会をする予定。あなたもあなたの街で、このコッカイオンドク、いかがですか。



中島弘美

対人援助学会研究会より

2017年3月10日の研究会は、勝山ファミリーカウンセリングルームの徳永和美さんにお越しいただき、母子生活支援施設と相談機関での支援について、これまでのご経験をお話いただきました。参加者のなかには、わざわざ九州から来られた方もおられ、現在、母子支援に直接かわっておられる方、医療機関等に勤務されている方など、「うちの勤務先でも同じようなことがあって、、」とグループでさまざまな意見交換がされました。

今回は5月26日、大阪府立大学の川聡子さんの「10代で出産した母親と家族の実態に合わせた支援のあり方」につ

いてです。ゲストスピーカーが書かれている対人援助学マガジン 11号〜連載中の「10代の母という生き方」も合わせてご覧ください。(教育研究委員)

藤信子

近所の八百屋さんに、今年は柑橘類の種類が出るのが少ないような気がするけれど、と聞くと、消費者が甘いものを好むので、酸っぱいものがだんだん出なくなったということだった。6-7年くらい前は温州ミカンが終わると、ポンカン、デコポン、八朔、たんかんとか順にいろんなものが出てきて楽しかった。今もデコポンとかあるけれど、清見オレンジとか、私にとっては甘すぎるような感じのものが多い。夏ミカンはたしかに酸っぱいけれど、甘夏、八朔くらいも酸っぱい方に入るのだろうかとか家で話した。

かしわも肉も豆腐も魚も近所の店で買うことが多いけれど、八百屋さんとか話すことが一番多いのは、天候の影響を受けて、品ぞろえが変わったり、値段が変わったりするからだろう。去年から野菜の葉っぱものがとても高かった、高くなった野菜を中央市場で買ってきても売れないし、難しいという話も聞いた。異常気象というのは、そういう影響があるんだということも知ったのだった。

千葉晃央

グアム、サイパンに船で9日間かけて子どもたちと行く「ABCカルチャーシップ少年少女の船」のリーダーを学生時代にした。近畿にある複数の青少年活動団体から大学生キャンプリーダーが派遣され、リーダーのための事前研修も宿泊でしっかりと行われた。その当時担当したのは高学年男子のグループ。船酔いと闘いながら、洋上の船内では様々なプログラムをして過ごした。日が沈んでから木製甲板に寝そべり天然プラネタリウムで満天の星空、厚みすら感じる天の川、南半球限定の南十字星を子どもたちと観たことは忘れられない。グアムでは戦跡めぐりもした。歩行者を優先するドライバーのマナーにも驚愕した。現地の方々との文化交流プログラムもあった。★その時に乗った「ふじ丸」は当時日本最大の客船だったようで、豪

華客船とも言われたそうである。屋外プールに、大海原を見渡す展望大浴場もよく覚えている。その後、「ふじ丸」の名前はニュースで耳にするようになった。阪神淡路大震災では震災の翌年に港の復旧の象徴として大きな客船「ふじ丸」が入港したことがニュースとなった。東日本大震災では現地向かい、大船渡、釜石、宮古に寄港し、客室機能を住民に提供した。★「ABCカルチャーシップ少年少女の船」には参考になった取り組みがある。「AKT少年の旅」という秋田テレビが長年行ってきた取り組みであった。それを東北版から関西版へと移植され、取り組まれていた。それを実現された方は、秋田に足を運び「AKT少年の旅」も実際に体験されたときく。秋田テレビ側にいたのが私の父であった。関西版の実現に動かれたその方には「ABCカルチャーシップ少年少女の船」の準備等でもお目にかかり、私がこの企画のリーダーをする上でのご支援をたくさんいただいた。★時は2017年。SNSでその方とつながった。その方はなんと現在は京都の福祉施設の施設長をされているとのこと！！先日、23年？ぶりに再会！私が勤める福祉施設に見学に来てくださった。当時と同じオシャレで、企業での経験を私たち福祉業界にも生かしてくださっていた。こんなめぐりあわせに感謝しかない。



中村周平

この7、8年ほど、学校や大学から講演の機会をいただくことがあります。テーマは、人権に関するもの、障害当事者の生活について、スポーツ事故の現状など様々です。

講演活動は、自分の想いを他者に伝え

られるだけでなく、その都度、自分の考えやこれからの方向性について「見える化」する機会にもなっていて、ご依頼くださる方々に本当に感謝しています。

その講演活動を通して、最近気づいたことがあります。それは、人権に関するテーマなどでお話をさせていただいている際に事故の経緯に触れているときの自分の気持ちが、徐々に変化してきていることです。何が変わったと言われるとなかなか難しいのですが、後日に感想文を読ませていただくと、これまで「事故に遭ってかわいそうだと思った」、「ラグビーというスポーツは危ない」といったものが多かったのですが、自分自身の気持ちに変化を感じ始めた頃から、そういった感想は無くなっていきました。

スポーツ事故を研究していくうえでの様々な学びや沢山の方々との出会いによって生まれた自分の中での変化を、まったく違う場面で気づかされることになりました。

浅田英輔

半年間の東京生活を終えて、青森に戻ってまいりました。

4月から高齢福祉保険課に異動となり、介護予防の事業などを担当しております。「介護予防」ってなに？とも思いますが、ずーっと突き詰めていくと、マクロでは地域創生、ミクロでは家族の在り方に収束していくんだよねーと日々実感しております。人口減少は本当によくないことなのだろうか。少子化はよくないことなのだろうか。子どもの問題にかかわり、高齢者の問題にかかわり、どちらも地域創生に関係し、家族に関係する。個別にはそれぞれの家族があるが、全体としては「今の傾向」がみえてくる。青森県は、日本は、どこへ向かえばいいのだろうか。

中村正

5月の母の日。連れあいの母と連れあいと娘が三世代の女子会を開いたようだ。大阪で仕事を始めた孫に会いたいと出かけてきた祖母。大阪の中之島公園で開催されていたバラ園を楽しみ、長いランチをとり、ずーっとおしゃべりをしていたというラインで届いた写真には、真っ青な空と赤

いバラと楽しそうな女子会が写っていた。想像しただけでも心地よいなと思った。では同じように、孫息子と父と祖父は同じようにして父の日におしゃべりできるだろうか。まあ、それぞれの過ごし方があっていいかと思いつつ、その時わたしは新潟で講演をしていた。あとでその食事代と祖母の新幹線代金を払ったが、小さな幸福のお裾分けだと思いつつ帰路についた。

牛若孝治

1度癌宣告を受けたら

先月、行きつけの散髪屋に行ったとき、いつも私の散髪を担当してくれているおやじがこんなことを言っていた。「これは、お客さんから聞いたんやけど、1度癌を宣告された人は、ものの見方や考え方が変わるんかなあって」、確かにそうかもしれない。

昨年末、腹部の臓器に腫瘍が見つかり、癌宣告を受けた。今年の1月末に開腹手術を受け、臓器を摘出したが、術後の病理結果で、良性腫瘍と分かり、安心した。臓器を摘出したことで、日常生活に少し変化が出てきたが、その変化は、今の私にとっては望ましいことだと受け止めている。

癌を宣告される前の私は、視覚障害関連の行事や話題をとことん嫌い、当事者でありながらどこか人事のようによそよしいところがあったような気がする。だが、1度癌宣告を受け、開腹手術で臓器を摘出してみると、あまりいらいらすることがなくなったせいか、このごろは積極的に視覚障害関連の行事に参加し、視覚障害関連の本や雑誌を読んでいる。そして私はこんなことを思うようになった。「なぜ俺は、『盲人』という言葉に極端に嫌うのか。なぜ俺は今まで、『盲会』と言われる視覚障害団体を、これほどまでに嫌わなければならなかったのか」。

袴田洋子

締め切りをまたもや数日過ぎてしまった、すみません。今日は、5月28日。あと1ヶ月ちょっとで50歳になります。人生、折り返し地点を十分に過ぎ、あとは、好きなことをして生きなくちゃ、と本当に思えるようになりました。そう、好きなことをする。

思うようにやってみる。セックスや女性の性欲について、堂々と女性が話出来るように、そんなことを思っただけの最近の連載です。

団遊

「毎日の仕事はやりたいことだし、大きなストレスもない。喜んでくれる人もいるし、相応のやりがいもある」。そんな状況であるにも関わらず、このままでいいのかと感じてしまう。「それ以上何を望むのか」と人から言われると「確かに」とも思う。この落ち着きのなさの正体はいったい何かと考えていたら、仕事には「脳が喜ぶ仕事」と「魂が喜ぶ仕事」の二種類があるのではないかと、思うに至った。ということで、その仮説に立って、わたしの「魂が喜ぶ仕事」探しを楽しむ毎日を送っています。

大石仁美

あの福島の悪夢のような事故から、いつの間にか6年が過ぎてしまいました。この間の政府のことはさておいて、心ある民間人たちは、何か自分たちに出来ることはないか、現地へ行ってみたい、せめて子ども達だけでも被ばくから遠ざけようと、避難場所を提供したり、事業団体としてリフレッシュ休暇を企画して招待したり、様々な取組を試みています。春休みに京都にやってきた子どもたちが、「この土は触ってもいいの？」と尋ねて、はだして走り回ったのを聞いて、ああ、そうなんだと、一つ一つの言葉や動作から、初めて福島に住む人たちの生活の一端がうかがい知れるのを感じました。

最近、“子ども達を放射能から守る全国ネットワーク”の情報ブログで、滋賀県で養生プロジェクト(放射性物質を体外に排出し免疫力を高める)をしますと呼びかけているのを読み、「いいなあ、滋賀県は。琵琶湖があって自然豊かで開放的で癒されるう〜、保養地としては最高！」と読み進めていくうちに「ん？」と思う箇所に突き当たりました。「放射性物質を持ち込まないために、車では来ないでほしい。靴や服はこちらで用意します。」

一瞬、からだがかわばりました。氷のトゲが刺さったような痛みを感じたのです。

福島の子供が、親戚に避難の

途中、“福島県民お断り”と書いたステッカーを張ってある車を見て、酷く傷ついた話が重なりました。これも放射能を持って来ないで！という意味なのでしょう。車はだめ。じゃあ、新幹線やバスの中はいいの??



善意が人を傷つける！ 善意の裏に透けて見えるエゴ。

ものを言えなくなった福島県民の心に寄り添うにはどうしたらいいの?! 当事者の声に耳をすまし、私たちが聴き取る力を身につけることなくして、先には進めないと感じた次第です。

村本邦子

週1ペースの映画を目標にしているが、実際にはこれをかなり上回っている。私にとって、映画は世界に開かれる窓だ。子どもの頃や若い時は本を読むのが大好きだったが、臨床に明け暮れるようになって、まったく小説を読まなくなった。読めなくなったという方が正しいかもしれない。「事実は小説より奇なり」で、臨床を通じてあまりにたくさんのストーリーが自分の体の中に流れ込んできて、それ以上受け入れる余地がなかったのだ。

今、生活の中の臨床のウェイトが小さくなり、再びストーリーを欲するようになった。小説を読むゆとりはまだ少ないのだが、映画なら仕事の合間にはめこむゆとりは持てるようになった。映画に求めるものはいろいろあるが、できるだけ多様で幅広い世界が見たいと思っている。楽しい。

國友万裕

この3ヶ月間は取り立てて大きな事件は起きなかったのですが、『サイゾー』という雑誌から取材が来ました。筋肉映画についての取材で、電話で1時間ほどインタビューを受けました。そのことを Facebook

に書いたところ、「先生すごいですね」というコメントが元教え子から入りました。この『サイゾー』という雑誌、ぼくはまったく知らなくて、表紙が過激だからエロ雑誌かと思っていたのですが、そんなことはなく、人気のある面白い雑誌なのだそうです。そこに名前が出るなんて、すごいと思う人もいたのでしょうか。もっとこういう仕事が続いてくれればいいのですが。

それとこの4月から、北陸にいたベストフレンドが大阪に移ることになり、これで頻繁に会うこともできます。彼とはもう16年くらいの付き合いで、その間、一貫して生産的な友情をつないできたので、運命的な出会いだったなあと感じました。

そして、この7月に京都外大で講演することがほぼ本決まりになりました。予定では7月15日(土曜日)。タイトルは「映画で学ぶ男子学 それでもボクはマッチョになりたい!」(仮)です。時間のある方は是非、ご参加ください。詳細は後にサイトに出るはずなので、確認してから来てくださいね。

そんなわけで、特別大きな事件はないけども、特別悪いこともなく過ごしている日々です。何気ない毎日というところかな?

北村真也

「学びの森」代表。

(<http://manabinomori.co.jp>)

学びの森のホームページを、刷新いたしました。学びの森探究スクール、学びの森フリースクール、学びの森ハイスクール、そして学びの森ユーススクールと、さまざまな教育活動を展開しています。

古川秀明

20年前、自分が20年後もここで新研究を続けているなんて夢にも思いもしませんでした。

未来に包括される全ての事を、肯定的な不安として持てるようになればいいなあと思います。

シンガーソングライター

西川友理

京都西山短期大学で保育者養成をし

ています。

SNS はなんだか得体が知れなくてコワイ、と、毛嫌いしていた私が、前職を辞めたタイミングで、「いいよ！おもしろいよ！」とすすめられた事をきっかけに Facebook を始めたのが3年前。今では週に1度は更新するまでになりました。

それまで知らなかった勉強会や研究会、専門的な情報やそれにまつわるサブカルチャーの情報が入ってくるが大変便利でありがたい。また自分が皆にお知らせしたい思いや考え、情報も、さらっと拡散出来て楽しい♪

面白いと思うのは、Facebook を利用している人それぞれが、自分なりのルールと役割をきめて、投稿しているのが何となくわかる事です。そういう意味では自分軸のしっかりした状況で使うと有効なツールだなあと思います。逆にそうでない場合は振り回しがちになりそう。ある一定の人々の間では Facebook 離れが進んでいる、というのも、何となくわかる気がします。その一方で、ある一定の人々には、ものすごく有効活用されている感覚もあるのです。

坂口伊都

子どものことを心配してしまうのは、母としての宿命なのでしょう。受験生の息子は大丈夫だろうかといついつい心配してしまいます。この前も羽が生えて遅くまで帰ってこない息子に「あんたは俺の心配なんてしなくても大丈夫だと思っているけど、それでも心配してしまうねん。母ちゃん、どうしたらいい？」と聞くと、「別に何にもしなくていい」と言われてしまいました。心配しても仕方がない、息子の人生やして悶々と考えてはいるのですけどね、気になってしまいます。

ウダウダとしている私に食堂のロマンスグレーのマスターが、昔話をしてくれました。「親から何かわからないけど距離を置きたくなるけど、でもかまって欲しい気持ちもあって、かまわれると嬉しいけどそんな顔できない時があったわ」と。マスターは、高校を出ると違う土地に行き、働いたお金で立派な自転車を買って日本一周を果たしたし、なかなか破れなかった自分の殻を打ち破ったそうです。人にはいろいろ

ろな歴史があって、いつか息子も誰かに語る日がくるのでしょうか。息子が自立していく日を楽しみにして、もうひと踏ん張りしようと思っている今日この頃です。

河岸由里子(臨床心理士)

北海道 かうんせりんぐるうむ かかし 主宰

この五月、クラス会が三つもあった。年齢が上がるとクラス会が頻繁に開かれるようになる。退職して暇になる人が多いということもあるのだろう。

最初がアメリカの高校の45年目の同窓会とクラス会。学校を訪ね、当時の校長先生にお目にかかった。おそらく90歳くらいだろうが矍鑠とされていた。この学校は1年間だけ留学していた所である。たった1年だったが私にとってはとても刺激のある日々だった。今も多くのクラスメイトと交流があるので、5年ぶりに参加したが楽しく過ごすことができた。49人のクラスメイトのうち20名が参加。8名が亡くなっていた。

アメリカから帰ってきてすぐ、日本の高校のクラス会があった。こちらは2年に一度開催されているが、予定が合わず、10年近く参加していなかった。女子高だったが、クラスメイトはほぼ全員が何かしら仕事をしていた。60を超えてもみんな元気なのはアメリカのクラスメイトと変わらないなと思った。



そして、最後が小学校の50年目クラス会。毎年開催されているが、今回は11名参加。みんなとても元気だった。

どのクラス会でも出るのが親の介護の話と子どもが結婚しないという話。孫ができている人もいるが、比較的少ないように

思う。子どもの歳は大体30代。急いで結婚することもないが、歳をとってくると孫を見たいと思うのも自然だろう。これからのクラス会では、孫の話と、老化の話が増えるのだろうと思いつつも、過去を懐かしみながらみんなで過す時を満喫した。

岡崎正明

近所にあった公民館が老朽化で建て替えとなった。場所も移転し、新たに子ども向けの遊具を備えた公園が併設された。家から歩いて3分ほどで行けるため、我が家としては大変重宝している。土日になると似たような子連れ、孫連れが結構いてなかなか盛況だ。

ところが先日町の広報誌で、公園の新たなルールが掲載されていた。「ボールで遊ばない」「滑り台を逆走して登らない」など、なんとなく納得できるものの中に「鬼ごっこ禁止」という項目。「公園で鬼ごっこできんならどこですればいいんじゃ？」と我が子がポツリ。まったくである。

もちろんルールを決めた側の理屈も分かる。2~3歳くらいの子がよちよち遊ぶ中、小学生が縦横無尽に駆け回る。夢中になって気がつかず、衝突することもあり、実際見ていて危ないこともしばしばだ。苦情を言う保護者もあるだろう。

ただだからといって、一律管理者側のルールで決めてしまうことが、果たしていいのか？これが行き着く理想の公園は、整然と列に並んで滑り台をすべり、終わった子は一礼して黙って歩いていく…みたいな？確かに事故もトラブルも起きないかもしれないが、どこかのミサイル飛ばす国じゃないんだから(笑)

オトナの都合ですべてを解決することは、子どもが失敗の中から学び、解決する力をつける機会を奪うことにもなる。公園の遊具で追いかけてっこをして今は大丈夫なのか、そうではないのか。周囲の状況を見て自ら判断することを覚えないうちは、批判は得意だが自分で責任を引き受けられない大人になりはしないか。

私だったら、町のゆるキャラ〇〇から「みんなへのお願い」と題した小さなピラでも作り、公園に来る子どもたち(小学生以上くらいを対象)に配りたい。ルールは少ない方がいいが、みんなが楽しく遊ぶた

めに最低限必要なこと。小さい子も大きい子も、ゆっくりな子もはやい子も、いろんな友達が公園をつかうこと。公園にほかの友達がいるときは、これをしたら相手がどう思うかをちょっと立ち止まって考えること。もし人に迷惑をかけてしまったら、きちんと謝り、次から同じことにならないよう、工夫したり話し合うこと。

そして大人には、子どもが触れ合い、交じり合い、失敗する中で学ぶことの大切さと、「もし危ない行為をみかけたら、他人の子でもしっかり注意してあげてくださいね」と伝えたい。公園の看板のルールは、せいぜい3つくらいまでにしたいものだ。

このままだと、傷つけ合わないけど助け合わない社会になりそうで、なんだか嫌である。 buimen0412@yahoo.co.jp

竹中尚文

私の好きなことの一つに料理がある。今年の春は急激に暖かくなっていくような気がする。夏はもうすぐだ。夏になると近所の人たちから頂いた野菜をつかってラタトゥイユを作るのが楽しみだ。私なりの作り方をご紹介します。

まず、夏野菜をカットする。茄子とズッキーニは、たてにゼブラ状に皮をむいて乱切り。ニンジンとタマネギも他の野菜に合わせてカット。パプリカはオーブントースターしっかり焼いてから、種とヘタをとって他の野菜に合わせてカット。他にセロリなど好みで野菜をカットしておく。

①鍋にたっぷりのオリーブオイルを入れて、多めのニンニクと鷹の爪数本を炒める。②次にカットした夏野菜を入れる。ローリエを入れて、軽く塩コショウをして炒める。③しっかり炒めたら、トマトソースを入れて煮込む。トマトソースはまとめて作り置きして冷凍保存しておくのもいい。もちろん既成トマトソースを使う手もある。④ここで塩・コショウ・乾燥バジルで味付け。塩は強め。塩を入れ過ぎたら、フレッシュトマトをみじん切りにして入れて調整。少し煮込んで味と整える。⑤冷蔵庫でしっかり冷やして完成。食べる前にフレッシュパセリを散らせるのもいい。

コツは、塩味。最後に冷やしたら、塩味はほける。冷やしたときの塩味を想像しながら味付けをするのがこの料理の面白い

ところ。想像をするのダ。私は、塩分量を考えて鷹の爪を少し多めにいれる。ローリエや乾燥バジルがなければ、なくても気にしない。気が向けば、ワインを加えるもいい。食べてみて、すべての味のバランスが決まっていたら、達成感あり。不味ければ自分の想像力を磨こう。

料理のバックに流すのは、グレイトフルデッド。アメリカでは親父ロックと呼ばれるように、ファンは 1950 年前後生まれの世代が中心である。もうお爺んロックかもしれない。ジェリー・ガルシアのギターが、暖かい音なのだ。エリック・クラプトンのように格好良くない。ジェフ・ベックのように超絶技法の音でもない。暖かくかっこいいのだ。お薦めのアルバムは“the Greatful Dead (Skull & Roses)”このアルバムジャケットは、1966 年サンフランシスコ公演のポスター。私の部屋のドアに貼ってある。



浄土真宗本願寺派専光寺住職

サトウタツヤ

最近、驚いたこと。

▲「分離すれども平等」

20 世紀中頃までアメリカで支持されていた論理。「学校が白人用と黒人用に分かれていても(人種分離)両施設の品質が平等」であれば差別ではない。

▲「フォーチュンクッキーは日本の辻占が起源」

アメリカのフォーチュンクッキーは、山梨県出身の萩原眞(はぎわらまこと)が「辻占煎餅(つじうらせんべい)」を売ったのが始まりだという。第二次世界大戦中、日本人がアメリカで力を失った時に、中華料理店のデザートに取り入れられたので中国起源と思われがちだが、そうではない。

▲「2018 年度から立命館大学人間科学研究科が OIC で開設」

人間科学研究科の教員が参加する入試説明会が、大阪(茨木)、京都(衣笠)、大分(別府)で行われます。

☆人間科学研究科ウェブサイト

詳しくは↓

<http://www.ritsumei.ac.jp/psy/info/detail/?id=43>

*社会人対応あります(詳しくはお問い合わせください)

☆人間科学研究科の定員

博士課程前期課程 定員 65 名

心理学領域(7 名)

臨床心理学領域(25 名)

対人援助領域(33 名)

博士課程後期課程 定員 20 名

☆大学院の合同入試説明会の日程。

2017 年 6 月 4 日(日) 立命館大学大阪
いばらきキャンパス(OIC)にて 12:00~

2017 年 6 月 18 日(日) 立命館大学京
都衣笠キャンパスにて 12:00~

2017 年 6 月 23 日(金) 立命館アジア太
平洋大学(APU)にて 12:25~

詳しくは↓

http://www.ritsumei.ac.jp/gr/exam_event/briefing/index.html/

なお説明会は秋にも予定されています
(日程は未定)

☆人間科学研究科の指導教員(予定)情報

現・総合心理学部教員

詳しくは↓

<http://www.ritsumei.ac.jp/psy/teacher/>

現・応用人間科学研究科教員(一部担当しない教員がいます。)

詳しくは↓

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/gr/gsshs/teacher.html>

川崎二三彦

スポーツ観戦

「三つめのキャスターの役割は、『言葉探し』だ」

「新しい事象に『言葉』が与えられることで、それまで光が当てられずにきた課題が、広く社会問題として認識され、その解決策の模索が急速に進むということがある」

これは、国谷裕子著「キャスターという仕事」(岩波新書)の一節だが、言葉を発見することが認識を新たにするというのは、何も社会問題に限ったことではない。ごく些細なことにも通ずることだ。

「川崎さんって、スポーツ観戦が趣味なんですね」

ある時、同僚からこう言われて初めて、自分の趣味が何であるかを知ったというもの、これに類することだろう(つまらぬことで国谷さんを引用して申し訳ありません)。

政治関連のニュースを見ていると、時の政権があまりにも不誠実で、嘘やごまかし、言逃れが多く、ひどいときには居丈高に質問をはねつけるような態度に気分が悪くなり、嘘いつわりのない勝負の世界にチャンネルを合わすようになったのが、もしかしたら「スポーツ観戦」を趣味にするようになったきっかけではないかと、今更ながら考えたりする。

そんなとき、目にしたのは毎日新聞地方版の記事。



「闘う姉の姿 見ている」というボクシングの記事だが、スポーツ観戦の中でも、ボクシングは特に私のお好みなのである。ここまで60有余年生きてきて、ただの一度も人を殴ったことはないのだが、ボクシングには興奮させられる。

記事を見ると、翌日、京都市内でボクシングのWBO世界王座決定戦が行われ、どうやら自死したらしい弟のため、是が非でも勝ちたいという姉がリングに上がると

書いてある。そして、ご丁寧に主催団体の連絡先まで記してあった。まさか、明日に迫った世界戦のチケットが売れ残っているとも思わなかったが、ものは試しに電話してみると、まだいくらでも？あるという。世界戦とはいえ、女子の試合だから、



それほどには盛り上がっていないのかなと思ったが、それはともかく、生まれて初めて生でボクシングを、それも世界戦を、地元京都で見ることができなんて考えもしなかったことだ。早速手に入れたのは大枚1万円の指定席。前から5列目だというので勇んで出かけたなら、5列目は最後尾で、後は全て立ち見席だったというのは愛嬌として、この日行われた全6試合を観戦した。和服姿の女性も来ており、会場のKBSホールは小さいながらも熱気に包まれていた。タイトル戦以外の5試合は全て男子の試合だったが、四回戦の第1試合から予想以上の激しい闘い。TKOあり、負傷判定あり、デビュー戦ありで生観戦を堪能し、最後は、女子とはいえ死力を尽くした世界戦だ。最終ラウンドまでもつれた試合は、血まみれとまでは言わないが、両者出血する大熱戦で判定も割れ、件の彼女-小澤瑠生は残念ながら敗北したものの、私は大いに満足したのであった。

それにしても、5月はボクシングの季節だったのか、テレビでも大いに盛り上がった。

「夕食できたよ」

という連れ合いの呼び声も無視してテレビに釘付け。最大の呼び物は、なんとと言っても金メダリスト村田諒太のWBA世界ミドル級王座決定戦だろう。

村田が4Rにダウンを奪うと、その後はいつ倒してもおかしくない展開。逃げながらもジャブを繰り出して防戦一方のエンダムを村田がいつ仕留めるのかが見どころだったが、惜しくもその機会がないまま、試合は最終ラウンド終了ゴングを迎えた

のであった。

結果はというと、なんと1-2のスプリット・デジジョンで村田の判定負け。



「それはないでしょ」

と、素人ながら不可解としか言いようがない結末に、後味の悪さばかりが残ったのであった。だから、その前にあった比嘉大吾のデビュー以来13連続KOによるチャンピオン奪取の試合や、翌日に行われた井上尚弥の防衛戦が、3ラウンドKOという圧倒的強さで終わった試合、さらには1Rで衝撃的KO負けに屈した八重樫東の試合など、全てが色あせたものとなってしまった。



もやもやしていたら、WBA会長が村田の判定負けに怒りをぶつけ、「117-110で村田が勝っていた」と発言したとの報道があった。素人のひいき目でなく、プロ中のプロが見ても村田は勝っていたんだと、少しだけ溜飲が下がったのだが、今号の近況報告は、こんな話題にかまけているうちに、予定の紙数を超えてしまった。ご容赦あれ。(2017/05/23記)

荒木晃子

締め切りを過ぎ、今号は「番外編」として執筆した。正直、久しぶりに苦しい執筆だった。別段、どこが痛いとか、何が辛いではないのだが、前回までの連載を引き続き書き続けることには抵抗があった。どこかで聞いた言葉であるが、「なかったことにはできない」というのが本音にある。

巷で飛び交っているトピックスの、当事者情報が手元にあることの苦しさ故、なのかもしれない。この苦しさを、今はそっとしておこうと思う。何もできないというか、何も手段を持たないからだ。今は、大切に抱えて暮らそうと思う。抱える問題や苦しさは、解決するのが良いとは限らない。解決するチカラもあってよし。また、抱えるチカラもあった方がよい。生きるためのチカラであることには変わらないのだから。

鶴谷主一

今年度から「幼稚園型認定こども園」に移行した。

移行して変わったことは、朝7時半から園児が登園するようになったこと、保育料が市の基準額(所得に応じた額)に変わったので、通帳への入金がかっきり減り「給料払えるのか!？」と不安になったこと。

所轄が県から市が変わって、提出書類なども保育園的になり要領を得ないこと。市の担当者も、幼稚園型こども園というはじめての類型のため、間違った書類を送ってきたりしてお互いに戸惑うこと。そうは言っても、制度に乗っかってやっていかなくてはならないのが我々の仕事なので、慣れるしかないと思って日々やっております。

原町幼稚園

<http://www.haramachi-ki.jp>

メール osakana@haramachi-ki.jp

ツイッター haramachikinder

木村晃子

4月、仕事の配属が変わった。新体制は、自分一人ではない。責任もある立場になった。日々の業務を消化するには、時間が足りない。早朝出勤、残業、休日出勤。仕事をしているか、寝ているかの毎日だった。目の前のことに必死になりすぎて、疲弊している自分の状態にすら気がつかなかった。

「お母さん、過労死するよ。仕事、やめなよ。」、娘の一言で救われた。生きるために仕事をしているのに、仕事のために死んでは本末転倒だ。ふと、我に返って、「終わらないこともある。」と、あきらめることを覚えた。死んではいけない、を日々実

感。

三嶋 あゆみ

政治の私物化が次々と明るみに出ていますね。税金は福祉と教育と被災地に使ってよ!と毎日憤っています。

見野 大介

気づけば2017年も半年が過ぎようとしています。元旦以外の日は全部仕事してたような気が…って、前回と同じこと言うてますね。

この半年は仕事面においては充実したかなと思います。充実した分、沢山の出会いがありました。ただ、沢山の出会いがあると、良い出会いもあれば、そうでない出会いもあるんやなあという経験をこの半年で感じる事が少なくなりました。

パニック障害や鬱の人と仕事をする機会がありまして。パニック障害や鬱を批判する気は毛頭無いので、あしからず。私も昔パニック障害的な経験をしているので、どういったものかふんわりとは分かると思います。経験しているだけに、そういう人と付き合うことで人それぞれ色々なパターンがあるんやなあと感じました。

自分自身の性格に問題があることは気付かず、都合が悪くなると自分が鬱だからだと言って鬱を言い訳にしている人。少しの失敗を取り返しのつかない失敗だと思い込んで殻に閉じこもって、失敗したことをリセットしてしまう人。両者とも、上手いかなくなったらその環境から逃げて居場所を転々としているようです。パニック障害も鬱もオーバーワークやパワハラなどの外的要因によるものが主要因だと思いますが、そもそもの自分自身にも原因があるケースもあると思います。私はそういう類の専門家ではないので、あくまで自分の経験に基づいて好き勝手に解釈して述べているので、ツッコミどころ満載かもしれませんがお許しください。少なくとも、前述の方々は劣勢に立たされたのは自業自得だからだと思う行動が非常に目立ちました。好感の持てる人だっただけに、非常に残念でした。前者は聞く耳持たずの人でしたし、後者は五時間かけて説得したのに結局駄目でしたし、どう接すれば良かったのか未だに答えが見つからないです。

誰でも長所短所があり、それぞれの身の丈に合ったベストがあると思う。他者の影響を受けて自身の芯がブレかねない状況に陥ることも多々あるでしょうが、人は人、自分は自分。他者の見解による道が必ずしも自身が歩んでいく道に当てはまるとは限らない。人それぞれにその人だけの道があるので、周囲の人を思いやり、意見を聞きいれ、ベストを尽くすことで自分だけの道を築き上げてほしい。それを前述の方々に伝えきれなかったことが悔やまれる。

うーん、柄にもなく真面目な内容になってしもた(笑)

浦田雅夫

大学はレジャーランドだったらいいです。学生にとっても教員にとっても私が大学生だったころは確かに。いまや、大学教員も「過労死ライン」です。健康第一。



団士郎

当事者と傍観者は常に生まれ続ける。多くのことについて、人は傍観者である。大事故が起きようと、台風が直撃しようと、重病が発見されようと、テロが発生しようと、幸い自分には関わりがなかった。そういう時間を生きているのが一般的だ。

てるみくらぶの倒産で、思いがけず当事者になった。具体的には16万円支払ったポーランドの旅がゴミになった。旅行が中止になり、関連のニュースに詳しくなった。

起きてしまったこと、済んでしまったことは仕方がないと思えるタイプだから、さっさと次の予定を立てて、一週間空いた時間を楽しんだ。

まだ寒いアウシュビッツにいるはずの時、北陸山代温泉の高級旅館で湯につかって、妻と美食を楽しんでいた。「なんだこ

りや一体！」と、我ながら思っていた。

そして、事の始末が社会の約束事として届く。一つはてるみくらぶ破産管財人弁護士からの破産手続開始通知書。財産状況報告集会が11月6日にメルパルク東京ホールで開催されるという。そして現時点では、配当できない可能性が高いと考えているとある。つまり、一円も返っては来ないと言うことらしい。でも、興味があったら新幹線代金自腹で来てねっか。

そして最近になって、旅行保険を掛けていた会社からの文書が届いた。これもてるみくらぶと一緒に支払っていたから、駄目だろうと思っていたのだが、こちらは全額返金するとある。

倒産というのはこういう事で、会社があらはこういう事なのだなぁと、民間企業で働いた経験のない私は、思った次第。



大谷多加志

4月で、大学院も3年目、一応の最終学年となりました。ストレートで卒業しないと家計的にも問題が出てくるため、卒業できるようにいろいろ仕上げていかないとけない1年です。

ここ数年、K式発達検査に関する研修で、色々な場所にお邪魔する機会が増えました。普段からそれほど旅行をする方ではないので、お声をかけてもらって初めて訪れる場所の方が多いです。先月は松山に。道後温泉まであと2-3kmほどのところにある愛媛大学で一日過ごして、最終の特

急に乗ってとんぼ返りました。『松山まで来て、道後温泉にもいかないのか…』とささんざん言われましたが、いつも何も考えずにスケジュールを突っ込むため、前後の都合でいつも直行直帰です。その松山からの帰り道の車内、列車が遅れているらしく、「ただいま3分遅れで…」「現在予定より8分遅れで…」と何度もアナウンスが流れる。岡山での乗り継ぎが10分ほどだったからあまり遅れると間に合わないのですが、『だめなら次に乗ったらいいのに、そんなに何度もアナウンスしなくても…』と特に気にしませんでした。ところが、岡山が近づくと乗客が続々と降車口に並び、ドアが開くと出走ゲートよろしく、一斉に走り出しました。なんとなく不穏な気配を感じ、小走りで新幹線のホームに着くと、乗るつもりだった列車が入ってきたところ。ひとまず手近な車両に乗り込み、車内を移動して席についてから、これが京都に行ける最終の新幹線であったことに気がつきました。あの度重なるアナウンスは、そういうことだったのね…。この辺の意識の薄さに、やっぱり旅慣れてない自分を感じます。

馬渡徳子

昨年秋の転勤で、地域包括支援センターの認知症地域支援推進員となった。

毎月、三箇所で開催しているが、五月のカフェで、こんなことがあった。

漢字が得意な元教職員さんの当事者さんの参加があるカフェの始まりに、アイスブレイクとして「漢字のへんだけを書いたカード」を中央のテーブルに広げ、めいめいが「好きなへんやつくりを選んで漢字を完成して一言」というワークをやってみた。

すると「りっしんべん」を選んだ元教職員さんが、「忖度(そんたく)」と書かれ、一言。「私はこの字の意味は、相手の状況(心の温度)を観察し、こころばかりの配慮をすることだと思う。」

参加者みんなが、「ほう！」と感服し、

「素敵な日本語は、大事にしたいよね」と口々に感想を述べ合った。

来月は、その方の提案で、「穴あき四字熟語で一言」に、決定した。

さあ、私も、粋でチャーミングな四字熟語の勉強しようっ！

乾明紀

前回の短信に、首と肩甲骨部分のハリの原因が通勤で背負っているリックサックの重さであることを書きましたが、その後、たまたまamazonで見つけた折りたたみ式の軽量リックサックに変えてみたところ、症状がほとんど出なくなりました！

このリックサックは、旅行などの際の携帯用として販売されているものなのですが、デザインも良く、価格も安価で1600円ほどで、ホントお買い得でした。3か月ほど使用していますが破れたりすることなく丈夫です。

通勤で使うカバン選びって重要ですね。軽さが一番です！

高垣愉佳

精神科に限ったことではありませんが、働く場所として外来が意外と好きです。短時間づつではありますが、大量の患者さんと出会う事が出来るからです。そして、その患者さん達の長期的な変化を学ばせていただけるからです。最近では双極性I型の患者さんの躁転と解離性障害の患者さんの人格が交代する瞬間に出会いました。とても小さなクリニックの外来ですが、私の知らない世界が無限に広がっていて、学びは尽きる事はありません。